SDGs達成に向けた取組チェックリスト

・基本項目は全てに記入いただくこととしています。ただし、業種・業態等により全く該当しない場合は、非該当欄にチェックを入れて、「具体的な取組」欄に非該当の理由を記載してください。
・「具体的な取組」には、チェック内容に関する具体的な取組を記載するほか、取組に関連する国際機関、国、県、市町村等の認証・認定等を取得している場合は、できるだけ、その旨を併せて記載してください。
・「企業」や「社内」とあるものについて、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。

分類	非該当	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組（記載欄）	参考：具体的な取組の記載例	参考：ステップアップを目指すためのガイドライン、高度な取組例など	参考：チェック項目と主なSDGs（17のゴールと169のターゲット）の関連性
人権・労働	□	1	【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出自などによる差別や各種ハラスメントを防ぐ体制が整備され、社内で差別や人権侵害がないことを確認している。	●		・採用、教育、昇進、登用、福利厚生などあらゆる雇用条件で、差別しない体制を構築し、経営トップが積極的に関与している（研修の実施、相談窓口の設置）	・ハラスメント防止研修を実施している。 ・ハラスメントに関する相談窓口を設置している。		4.3 4.4 4.5 5.1 5.2 5.5 8.5 8.7 8.8 10.2 10.3 16.1 16.2 16.7
	□	2	【労働安全衛生】 ・業務中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる。	●		・各場所で安全衛生環境月報を作成し本部（総務人事室）にて内容確認をしている。 ・リスク管理委員会で現場事故の情報は共有化され、随時改善や見直しを行っている。 ・アルコールチェッカー導入済み、サーバー方式への切替検討中	・社員向けの労働安全衛生講習会を実施している。	・安全衛生優良企業公表制度認定（厚生労働省）を取得している。	3 8.8
	□	3	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している。	●		・コンプライアンス・ハンドブックに細かい記載あり、定期的な読み合わせあり。研修サイトで入社間もない社員は必ず拝聴するサイトとなっている。 ・業務監査で問題提起された事案は、全社員で共有化して末端まで情報共有化する	・人事評価制度を導入している。 ・適正な業務分担、責任分担を行っている。		5.5 8.5 10.2 10.3
	□	4	【ワークライフバランス】 ・働き方の見直し等により、過度な長時間労働を防止し、家庭と仕事の両立を図るためのワークライフバランスを推進している。	●		・DX活用に依る業務効率化をプロジェクトteamにて推進継続中。期初に最低6日の有給取得奨励日を事前申請させる運用方法。 ・育児対応として時短勤務を取り入れている。男性社員も育児休暇取得を検討中	・ノー残業デーを設定している。		3 5.5 8.5 8.8 10.3
	□	5	【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している。	●		・職務や役割に応じた研修体制を整備し実施している（場所長、主任、主事、内勤R等）。業務に必要な資格取得に関わる経費を負担している（資格取得時） ・新人にはOJT担当者を１名任命し、手当を付けている	・社内研修を実施している。 ・従業員が自主的に学んだセミナー受講料に対して助成している。		4 5.5 8 9
	□	6	【健康経営】 ・従業員が心身ともに健康を維持できるよう対策を講じ、生産性の向上等に取り組んでいる。	●		・社員満足度チェックが定期的におこなわれている ・社員満足度、上司との関係性、職場環境について情報収集がなされ、総務人事が状況に応じて関係者と会話して問題の共有化を図っている	・健康的な食事に関する社内セミナーを実施している。	・ふじのくに健康宣言事業所（静岡県）に認定されている。	3 8 17
	□	7	【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材（女性、外国人、障がい者、高齢者等）が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる。	●		・次期システム／業務改善プロジェクトメンバーは公募とシステム課推薦の両建てとしている。女性社員のマネージャー登用を進めている。 ・物流センターで外国人労働者を雇用している。退職時期延長、制服廃止、+++H12:H14	・夫の育児休業取得を推奨している。 ・定年を超えた雇用制度を設けている（再任用制度など）。	・富士市ユニバーサル就労協力企業に登録している。	4.4 5.1 5.5 8.5 10.2 10.3 16.7
	□	8	【新しい生活様式への対応】 ・新型コロナウイルスの感染拡大など、変化する社会の情勢や要請に対応して、労働環境などを見直し改善している。		●	・在宅勤務ができる制度・環境を整備している。 ・WEB会議、WEB研修を実施している。	・時差出勤やテレワークができる制度・環境を整備している。 ・ウェブ会議を活用している。		3 8 9.1 11 12
	□	9	【デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進】 ・ICTやAIを活用したデジタル化やオンライン化等のDXの推進により業務の効率化やビジネスモデルの変革に取り組んでいる。		●	ペーパーレス化を推進している（IWDT他） PRAを導入して無人化作業を拡大している。ＥＤＩは仕入先と得意先で対応している ＤＸ認定制度でＩＴの知識や技量を評価する仕組みが開始された	・顧客ファイルをデータ化し、フリーオフィス化やテレワークを推進している。	・農作物のハウス内にIoTデバイスを接続し、土壌の水分量や照度を調整して最適化している。	8 9.1 11 12
環境	□	10	【環境汚染予防】 ・廃棄物や有害化学物質の適切な管理及び処理に取り組んでいる。	●		・環境マネジメントシステム(ISO14001)審査登録有り ・全拠点で物流規定書にて産業廃棄物はマニフェストにて管理する規定 ・マニフェスト有無は業務監査室にて確認をしている	・管理者を定め、年間取扱量、排出量及び移動量を管理している。	・エコアクション21を取得している。	3.9 6.3 11.6 12.4 14.1 15.1
	□	11	【エネルギー】 ・電力や燃料など、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		・サステナビリティ委員会発足し、脱炭素部会プロジェクトが活動を開始した。 ・2021/2022年度の燃料(Scope1)、電気(Scope2)のGHG排出量は見える化達成。2021年度比△34%程度で2030年度のCO2排出量を目標化で検討中(2013年度比46%削減に見合った削減目標)	・計量器やモニターを設置して使用量を把握している。 ・省エネ診断を行い、改善に取り組んでいる。 ・照明のＬＥＤ化をしている。		7.3 13
	□	12	【温暖化対策】 ・温室効果ガスの排出抑制に取り組んでいる。	●		・脱炭素部会で計画案の提案を検討中 2013年→2021年でGHG削減量は国全体で82%(△18%)が公表値、2030年度GHG排出量は2021年度比で34%となるので、年度別削減目標はそれにみあったGHG排出量とすべく、ｸﾘｰﾝｴﾈﾙｷﾞｰ、EV車、ｴｺ車導入の段階的な導入を検討中	・クールビズを取り入れている。 ・クールチョイス又はクールチョイス22（ふじ）を行っている。 ・共同運送を活用している。	・環境省の中小企業温暖化対策推進ガイドラインを参考とした取組を検討している。 ・社用車に環境配慮型車両（電気自動車、ハイブリッド車等）を導入している。	2.4 7.2 7.3 7.a 12.4 13 14 15
	□	13	【生物多様性】 ・自社の活動が環境（生物多様性や地域特有の生態系等）に与える悪影響を最小化する取組を行っている。	●		・環境に配慮した材料、製品、サービスの利用・提供を通じて生物多様性保全に配慮している	・敷地内の緑地では、地域の植生を取り入れている。 ・花や実のなる地域の木を植えている。		6.6 14 15
	□	14	【効率的な資源利用】 ・資源の価値をできる限り損なわないように、発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）、共有（シェア）、長寿命化などに取り組んでいる。	●		・受発注業務はペーパーレス化されている ・更なるペーパーレス化、省力化にむけて業務改善プロジェクトが活動中(ｲﾝﾎﾞｲｽ含む) ・エシカル製品の導入、開発を検討している ・返品良品は手入れしてリサイクル	・再生紙を利用している。 ・ペーパーレス化、裏紙の利用を促進している。		9.4 12.2 12.4 12.5 14.1 15
	□	15	【水資源の保全・管理】 ・富士市などの地域の水資源の質と量の保全、水資源の利用効率の改善、水質汚染防止の対策に取り組んでいる。		●	・安全衛生環境月報にて、毎月の水道使用量をチェックしている ・前年度の水道料使用実績値との比較で、増減量が把握可能で大幅増は指導が入る	・節水型トイレを設置している。 ・オフィスの水道に節水型水栓を設置している。 ・排水処理設備の維持・補修、予防保全を講じている。	・水道使用量を把握・記録した上で、削減目標を設定している。	2.4 6.1 6.3 6.4 6.6 11.5 14.1 14.2 14.3 15 17
	□	16	【再生可能エネルギー】 ・再生可能エネルギーなど、クリーンで持続可能性の高いエネルギーの使用や普及に取り組んでいる。		●	・1.8円／1Kwhのコスト高となるので、段階的にｸﾘｰﾝｴﾈﾙｷﾞｰの導入を検討中(会話中)倉庫照明は基本的にLEDに切替完了　複合機はﾘｰｽｱｯﾌﾟ品よりﾘﾌﾚｼﾞｯﾄの入手予定旧式エアコンを特定化して切替を進めるべく調査中	・建設作業所にて交通表示板等に太陽光発電機材を使用している。 ・再生可能エネルギー比率の高い電力契約へ見直した。	・太陽光パネル、風力発電を設置して、クリーンな電力の利用に努めている。	
	□	17	【地域の景観等の継続的な保全管理】 ・地域の自然環境（山・森林・河川・海）やまちなかにおける景観や環境を保全管理する取組に継続的に参画している。		●		・河川のごみ拾いを行っている。 ・海岸清掃を行っている。 ・植林活動を実施している。		11.6 11.7 13.1 13.3 15 17
	□	18	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気・水素自動車、自転車などの環境にやさしい交通手段の使用を促進している。		●	本社への出張等は、極力公共交通機関を利用している	・自転車での通勤を推奨している。	・社用車として環境配慮型車両（電気自動車、ハイブリッド車等）を導入している。	9.4 11.2 13.1 13.3
	□	19	【地域の環境問題に対する意識の醸成】 ・地域の環境や環境問題に関心を持ち、自ら考え行動する姿勢を持つことを目指して、市民や従業員に対し、地域の環境問題などに関する学びの場の提供や参加を促している。		●	産業廃棄物の処分は、マニフェスト発行業者にしか依頼出来ないルールで運用 ダンボールレスや貸し出しパレット（通い箱）での導入にも対応している	・環境アドバイザー派遣を利用するなど、従業員の環境教育の機会を創出している。		
製品・サービス	□	20	【製品・サービスの安全性と品質】 ・認証の取得や認証取得の製品の活用など、製品・サービスの安全性や品質の確保に取り組んでいる。	●		・製品・サービス使用時に想定されるリスクの洗出しと対策実施を行っている ・SDSシート（Safety Data Sheet）を管理し、適切に処理出来る体制を取っている	・ISO90001を取得している。		3.9 9 12.4
	□	21	【環境に配慮した製品・サービス】 ・環境に配慮した製品・サービスの開発・設計に取り組んでいる。		●	・環境に優しい製品群を取り纏め、極力見積の段階から提案するよう指導中 ・四半期毎発行パンフレットで、環境配慮製品の紹介ページを設けて客先と共有化 ・自社PBについても環境配慮型製品の企画を優先的に取り組んでいる ・エシカル商品の取り扱い検討タスクあり	・製造過程の食品ロスを削減する生産計画を策定している。 ・再生可能な資源を活用して製品開発している。 ・森林認証（ＦＳＣ認証）のある木材を調達している。	・資材発注時に設計図書等を再チェックし、残余資材の発生を防止している。	6 12 13 14 15
	□	22	【ユニバーサルデザイン】 ・年齢、性別、使用言語などに関わらず、あらゆる人々が使用できる製品・サービスのデザインを行っている。		●		・製品や、サービスおよび施設などにユニバーサルデザインを考慮している。 ・店舗の案内表示をやさしい日本語で表記する。（ピクトサイン、ユニバーサルフォントなど）		
	□	23	【社会課題解決】 ・社会課題を解決するための製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる。		●	・エコ車両、車両ダウンサイジングを進めている　ＥＶ車も導入済 ・ﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙ削減、パレット活用でゴミ削減のサービスを実施 ・エコ運転推奨、ドライブレコーダーを全車両に導入月次でチェックし問題ありは指導 ・エアコン等はユニット化して、現場の施行性や省力化、時間削減を協力に推進	・過剰包装やプラ梱包を取りやめる。 ・障害者就労支援施設に作業を委託している。	・国際フェアトレード認証ラベルが付いた商品の購入に努めるなど、原材料や製品などを適正な価格で調達する取組を行っている。	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17
	□	24	【地域資源の活用】 ・地域資源を活用した製品・サービスの開発および販売や、地域内外に向けたPR活動や販路拡大に取り組んでいる。		●		・市内事業者を優先して調達を行っている。 ・地域で生産された農産物や副産物などを活用した商品・サービスの開発に取り組んでいる。		8 9 11 12 13
	□	25	【パートナーシップによる高付加価値化】 ・産学官金連携の推進などにより、企業の事業、技術、製品・サービスの価値を高める活動を推進している。		●		・ビジネスマッチングによる製品・サービスの開発、販路開拓等を推進している。	・大学などの外部機関と、意見交換やアイディア出し、共同開発などを行っている。	
地域	□	26	【地域への参画】 ・自治活動や福祉活動や寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。		●		・地域清掃やお祭りなど、地域の活動に参加している。 ・自社主催のお祭りに地域住民を招いている。		1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17
	□	27	【地域の特性に基づいた地域防災力の強化（共助）】 ・地域の特性を踏まえた上で、防災教育や避難訓練への参画、備蓄品の購入や管理、その他災害時の応急対策や復旧の備えなど、地域と連携した取組を推進している。		●	会社から災害用の避難リュックが各人毎に配布されている 災害時避難mapを用意している	・富士市と防災協定を結んでいる。 ・備蓄品の用意を行っている。	・従業員へ防災教育を行っている。 ・避難訓練に毎年参加している。	1.5 3 4 10.2 11.5 13.1 16 17

SDGs達成に向けた取組チェックリスト

・基本項目は全てに記入いただくこととしています。ただし、業種・業態等により全く該当しない場合は、非該当欄にチェックを入れて、「具体的な取組」欄に非該当の理由を記載してください。
・「具体的な取組」には、チェック内容に関する具体的な取組を記載するほか、取組に関連する国際機関、国、県、市町村等の認証・認定等を取得している場合は、できるだけ、その旨を併せて記載してください。
・「企業」や「社内」とあるものについて、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。

分類	非該当	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組（記載欄）	参考：具体的な取組の記載例	参考：ステップアップを目指すためのガイドライン、高度な取組例など	参考：チェック項目と主なSDGs（17のゴールと169のターゲット）の関連性
貢献・社会貢献	❑	28	【地域の学びの場づくり】 ・地域の人びとの学びの場をつくる取組を実施・参画・支援するなど、組織の特性を活かして関わっている。		●		・キャリア教育に協力している。 ・社屋の研修施設を地域に貸し出ししている。		
	❑	29	【SDGsの普及啓発】 ・環境問題やＡ権問題をはじめとした社会課題の解決に向け、SDGsの普及啓発や教育機会の提供を行っている。		●	会社ではSDGs宣言をしている SDGs対応として、サステナビリティ事業室が発足し、①人口減少問題解決、②脱炭素格言、③wellBeingの３部会が活動している	・従業員向けにＳＤＧｓに関する勉強会や研修会を実施している。		1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17
	❑	30	【若者の就業や定着支援】 ・若者の就業や、移住を含む定着を促すため、インターンシップの受け入れやスキルアップを含めた自己実現を支援する取組を推進している。		●	社員研修制度があり、資格取得で費用を会社が負担する仕組みがある	・高校生や大学生のインターンシップを受け入れている。 ・従業員の奨学金返還支援を行っている。		4.4 8.5 8.6 10.2 17
	❑	31	【地域課題の解決】 ・自社の強みや特性を活かして、地域の課題解決や活性化に取り組んでいる。		●		・自社の販売網を活かして授産品の販路拡大に協力している。		1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17
公正な事業慣行・組織体制	❑	32	【経営理念の共有】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有、実践している。	●		・経営理念を明文化(社是)し、経営者は適時経営目標を従業員に説明し共有化している ・社是は各拠点に必ず飾ってある ・期初全店会議の内容は、場所長を通じて全社員に伝達される仕組み ・内部通報制度運用中	・経営理念を明文化している。 ・経営者が理念を持ち、適時、経営理念、経営目標を従業員に説明している。		8 9 17
	❑	33	【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している。	●		・コンプライアンス・ハンドBOOKにて細かい記載あり ・新たな法令や法令の変更が生じた場合は、所管部門より新運用ルールが配信される ・リスク管理委員会でも法令変更については情報共有化あり	・コンプライアンスマニュアルを策定し、法令遵守の重要性を従業員に周知している。 ・コンプライアンス研修を実施している。		16
	❑	34	【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している。	●		・コンプライアンス・ハンドブックに細かい記載あり、定期的な読み合わせあり ・研修サイトで入社間もない社員は必ず拝聴するサイトとなっている ・業務監査で問題提起された事案は、全社員で共有化して末端まで情報共有化する	・公正な取引に関する行動規範を定めている。 ・行動規範に基づくチェック体制がある。		10 16
	❑	35	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当や専門部署などの体制を整備している。	●		・SDGs推進の組織としてサステナビリティ委員会が組成された ・①人口減少問題解決、②脱炭素、③WellBeingの３部会がプロジェクト化され、各部会共に部会長、副部・会長、事務局にバイネームあり、２ヶ月に１回の経営報告会がある	・責任者（担当役員）、ＣＳＲ管理者を任命している。		16
	❑	36	【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる。	●		・各種ソフトウェアはシステム部にてライセンス管理を徹底し、必要に応じて追加購入中 ・クライアント、サーバー、携帯端末共に勝手なアプリケーションのインストールが出来ない ・情報セキュリティ対策規定に明示されていて、定期的な研修で注意喚起をしている	・特許、商標などの侵害排除に関して、規程を設けている。 ・知的財産に関する勉強会を開催している。		8.2 8.3 9
	❑	37	【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している。	●		・個人情報保護に対する基本方針を定め周知徹底すると共に体制整備を行っている。社員は研修コンテンスの拝聴を定期的に行い周知徹底図っている（新人は研修会）名刺管理ソフト導入時に紙名刺の管理徹底を図っている　データダウンロードは不可.新しいウイルス対策ソフト　別製品にてセキュリティ強化導入予定	・個人情報の取扱いに関する基本方針を定めている。	・従業員に対して情報セキュリティに関する研修を行い、従業員の情報管理リテラシーを定期的にチェックしている。	16
	❑	38	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー（利害関係者：従業員・消費者・取引先・投資家・社会全体）からの要請や意見を聞く体制を整え、適切に対応するなど、公正で良好な関係の構築に取り組んでいる。	●		・適宜ステークホルダーとの会話等で意見を経営に生かすなど、双方向コミュニケーションに努めている ・エンドユーザーからの製品及び施行クレームには、一次窓口として紳士的に対応している	・定期的にお客様アンケートを実施している。 ・お客様相談センターを設置している。 ・クレームを公表している。 ・ＣＳＲ活動をホームページで掲載している。		16 17
	❑	39	【リスクマネジメント】 ・リスクを特定、評価し、マネジメントするプロセスを整備している。		●	・リスクマネジメント委員会を半年毎に開催し、各本部からな代表部門が期間内に発生したリスク事案の対応や対策案を持ち寄ってリスクを経営メンバーと共有化している	・社内で起こり得る事故リスクを洗い出し、従業員に周知している。 ・ヒヤリハット事例を社内で共有している。		9 11 13.1 16 17
	❑	40	【災害や事故への備え（自助）】 ・地震や水害などの自然災害や事故などに備え事業継続計画（BCP）を策定し、訓練や見直しを行っている。		●	・事業継続計画(BCP)を策定している ・各種環境がかなり変わってきているので、システム面を中心に見直しを行っている ・ウィルスメールに付いてはＤＸ推進課が全社員向けに実地研修を行っている	・災害時に従業員の安否確認できる体制を整えている。 ・地震及び津波を想定して、BCPを策定している。		9 11 13.1 16 17
	❑	41	【気候変動適応策の策定】 ・気候変動による影響に対して、企業の事業や経営の適応策を策定し、取り組んでいる。		●		・従業員の熱中症対策に取り組んでいる。 ・温暖化により豪雨や台風による水害が激甚化するおそれがあることを踏まえて、浸水対策を講じている。	・環境省の気候変動適応ガイドラインを参考として、気候変動適応策を社内で検討している。	
	❑	42	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている		●	後継者の指導育成は３年毎に行っているIBS(ｲﾝｼﾞｭﾛ・ﾋﾞｼﾞﾈｽ・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ)にて選抜ﾒﾝﾊﾞｰ選定し、７回に渡って宿泊ありの次世代経営トップﾒﾝﾊﾞｰ研修を行っている	・後継者の育成計画を作成し、検討を進めている。		8 9 17
				20	22				